

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援（主に重心）ひだまりっこα		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 15日		令和7年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 7人
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 15日		令和7年 1月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 2人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	障害種別の垣根なく、重症心身障がい児も賑やかな子どもたちの中で同じ部屋で同じ遊びができ、情緒や社会性の発達に互いに良い影響を与えていること。	・自力歩行できる児童とまだ難しい児童が同じ室内で遊ぶので、事故には十分留意している。マンツーマン療育で体調の変化の細やかな観察、安全安楽な医療的ケアの提供、また、同じ遊びでも個々の発達に合わせた目標設定やアプローチ方法により、様々な感覚を使って楽しめる様に支援している。	次年度はひだまりっことひだまりっこαの事業所統合があり、今より若干スタッフが流動的に支援にあたる時間ができる。ひだまりっこのスタッフにαのお子さんのことをよく知ってもらい、アプローチ方法を一緒に考え実行していく。
2	経口摂食移行児童への対応。 経鼻経管栄養からの脱却を保護者と共に行っている。 10年間で様々な児童が、経口摂取出来るようになったり、摂取量が増えたり成功例が多い。 外部の相談支援員からも摂食困難児ならひだまりっこαを勧めたいと照会あり。	・ほぼスタッフ全員が摂食指導の研修をうけ(1年)どのスタッフが担当しても、摂食の基本が出来ており、摂食拒否があっても声掛けや支援が丁寧。 ・摂食指導(s t)に病院まで同行し、母と一緒に受診することもあり。受診結果を共有し、支援している。 ・家での取り組みを継続して行う。	今まで積み上げたものの成果だと思うので、「重症児の重要事項」としてこのまま続けていくことが大切。
3	重症心身障がい児以外にも「医療的ケア児」にも対応。 幼保育園待機児も集団活動の慣らし・身辺自立など行っている。幼保との移行支援も行っている。	・幼保入園後をイメージし、それに合わせて身辺自立や集団での活動を行っている。移行前より、移行後に不安に思うことを保護者より聞き取り、不安軽減できるよう取り組んでいる。また、移行先に申し送りの書類作成し、問題等共有している。	必要時、「保育・教育等移行支援加算」や「関係機関連携加算」等も視野に各機関と協働していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者支援の中で、保護者のニーズに合わせた支援ができていないところがある。保護者会やペアレントトレーニングの出席率が低いところ。	保護者会については、毎回テーマを決め、参加したくなるようなテーマ作りをしているが、日程等も難しい。ペアレントトレーニングは、法人やひだまりっこ主催のものをご案内しているが、障害種別によりテーマも違ってくるので難しい。	法人内の重症心身障がい児向けのペアレントトレーニングを年一回でも開催検討する。
2			
3			